

登戸学寮ニュース

第15号 2023年10月19日発行

—寮生の寮外活動支援—

理事長 小島拓人

公益財団法人登戸学寮は学生寮の付帯事業として、寮生の寮外活動の費用を一部援助し、寮生の活動を共同生活の施設外にも拡大する機会を提供することとしています。本制度は学生時代という人生において柔軟で多感な時期に、自身とは文化的な背景や置かれている社会状況の異なる人々とできるだけ多く関わり、日本にいる自身やその周辺だけが「世界」では決してないのを知ること、またそのような出会いを通じて、人間としてのあるべき姿を自ら発見し、形成しようとするを旨としておりますが、これらは登戸学寮の設立趣意書の基本精神に合致するものであります。

この寮外活動の助成の対象としましては、国内外へのボランティア活動、個人による国内外への研修、大学等の研究機関が主催する国内外への研修等があげられます。助成の申請に対しては、(1)社会的・学術的に要請度の高い活動であること、(2)申請者の意欲や能力が高く、活動計画・体制も優れていること、(3)支出計画が合理的かつ適切であること、(4)寮の活動に積極的に関わっていることを勘案して選考します。そして助成対象者にはホームカミングデイ（例年11月頃開催）での発表や「方舟」

に活動報告掲載をお願いしています。

寮生の寮外活動支援の制度は、公益財団法人移行の翌年2011年からスタートしましたが、これまでに、累計30件余、平均すると年数件の活動実績があります。具体的には、東日本大震災等の災害復興ボランティア、醸造や織物等の伝統工芸の継承、農業実習、各種音楽会、コンサートの参加等があり、海外活動も韓国、ドイツ、チェコ、メキシコ、イギリス、オーストラリア、フランス、マレーシア、アメリカ、フィリピン、中国、ベトナム等各国での交流会、研修旅行、国際学会発表等、多岐に涉っております。

その寮外活動ですが、今年もこれまでのところ、きんじょの本棚、教会音楽講習会・パイプオルガン公開レッスン受講、アルメニアでのロシア語研修、大学山岳部のネパールヒマラヤ遠征等の元気な活動計画が申請されています。登戸学寮は大学キャンパスという場とは別の学生寮という共同生活の場を通して広い視野を養う学生生活の場を提供しておりますが、寮外活動支援はこの寮生活を共同生活の施設外にも拡大する機会を提供するものであります。多彩な学生生活を覚え応援して頂ければ幸いです。

特集 寮生の活動いろいろ

寮生の寮外活動支援	…… 1	ワントン国際開発便り	…… 8
寮の近況	…… 2	HCDのご案内他	
聖書の言葉	…… 3	新理事紹介	…… 9
寮生の活動Ⅰ：いかだレース他	…… 4	卒寮生インタビュー	…… 10
寮生の活動Ⅱ：寮生活動支援他	…… 5	寮友会報告/俳句コラム	…… 11
評議員選定委員会・理事会・評議員会 報告	…… 6	ご支援への御礼とご報告	…… 12
		寮生の出身国・都道府県	

寮の近況

今年の枳形山は早々と6月末から気温が30度以上になる真夏日が増え、7月は連日真夏日、梅雨らしい長雨も続かずいつの間にか梅雨明け、8月は連日35度以上の猛暑日。生田緑地の蝉時雨も6月末から始まり、遠慮がちなジージーがミンミンとなり、昼夜を問わず、何を競っているのか我も我もと声をからしてジーーーーッ、ミンミンミン、シャカシャカシャカ、伸び放題の中庭の雑草にため息をついていると夏の終わりの悲壮感が漂ってくるようなオーシンツクツク、オーシンツクツク、ツクツクポーシッ、ツクツクポーシッ、そしてようやくカナカナカナ…。時折やってくる驟雨の間だけはぴたりと止まる声、再開したと思えば真夏の日差しも復活。真夏の早朝には薄黄緑色に透き通った生まれたてのセミをあちらこちらで見ることができます。

セミの声とともに夏の数か月を過ごす間に今年も中庭では枝豆から始まりゴーヤ、スイカ、ナス、ミニトマトが次々に収穫されました。5月の連休あたりから寮生が耕し、種を蒔いて、苗を育て植え付けた野菜です。枝豆は大豊作、スイカのツルは中庭に侵食し、多くの実をつけ、スイカ泥棒に狙われそうなほど立派に育ちました。8月半ばを過ぎてからはナスが後から後から結実、閉寮期間を寮で過ごす人たちとムサカ(ミートソースとの重ね焼き)やてんぷらにして食べました。

まだまだ油断はできませんが、一段落した様相のコロナ禍から以前の生活に戻りつつあります。大学の授業然り、サークルなどの課外活動然りの一方で大学生の就職活動は様変わりしています。3年次からインターンシップが始まり、企業研究や面接のトレーニングも早々と始めるようです。一次面接は言わずもがなですが、何回目かの面接を経た後の最終面接ですらオンラインで行われることもあります。黒崎幸吉記念資料室は静かで明るく、書籍の並んだ背景は落ち着いた雰囲気を出してくれるからでしょうか、オンライン面接に活用されています。

登戸学寮の朝は7時の朝拝から始まります。起床、朝拝、朝食のリズムを崩さない人、朝拝に出ないで一日を始めようとするタイミングを逸してしまい(?)出席を継続しているという人、砂山が崩れるように起床時間が後退し夏を迎えた人、入

寮早々、朝拝って何?の不思議ちゃん。37名いれば様々ではありますが、起床、朝拝、朝食の流れが身につけている人、意識している人、時折思い出すことができる人は学生としての貴重な時間を大切に十分に活用している人、卒業後の歩みもまた自他ともに保証できる人といってもよいでしょう。日々の小さな積み重ねがどこにどのようなつながるか気がつくときが、今なのか卒業目前なのか、社会人になってからなのか、はたまた永遠に気づくときは来ないのか、その違いは途方もなく大きいと思うのですが。

キャリアフォーラム報告

開寮日の4月1日、松竹株式会社にお勤めの春口達磨さん(2009年卒寮)をお迎えして第4回キャリアフォーラムを開催しました。在寮時から映画製作に関わり、映画、演劇事業を展開する松竹入社へと繋がっていったとのこと、松竹では映画館運営他、様々な部署での経験を重ねることにより会社全体の事業、経営を俯瞰することのできるキャリアを積み上げているといったお話をうかがうことができました。

また7月30日に開催した第5回キャリアフォーラムには、株)アイディアファクトリーでゲームプロデューサーとして活躍されている安井光さん(1994年入寮、当学寮評議員)においでいただき「ゲーム業界から学ぶエンタメビジネス」と題し、ゲーム制作過程の興味深いお話をうかがいました。ゲームの好きな寮生数人も参加し、講演後のランチ会でもかなり活発な質疑応答が続けられました。今後はゲームを楽しむ一方で制作中のご苦労もきっと思い出ずに違いないでしょう。

両日ともに福嶋美佐子理事が司会を担当、当意即妙に話題を引き出してくださり、卒業後の進路



スイカもナスも豊作でした

を考える際の具体的なヒントを多く与えられました。
千葉美佐子

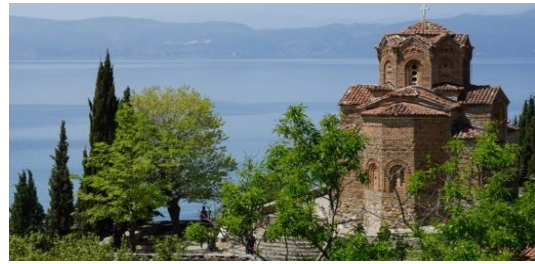
聖書の言葉 山の上の街は隠れることがない 一ひとつの光に照らされる天と地と一

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』(1937)の読書会を同名のジブリ映画鑑賞と共に催した。書上に落ちた一粒の涙が少年の裏切りの克服を映していた。寮生達が高中時代、本書の簡易版さらに漫画版までも親に熱心に勧められていたことを知り、「立派な」大人になって欲しいという親の切実な願いに襟を正した。聖書では山上の説教(マタイ5-7章(引用章節割愛))の「天の父が完全であるように、君たちも完全であれ」に教えは端的である。

人類の誰かによって語られねばならなかったイエスのこの究極的な人生の指針は二千年心に刻み続けられたその事実により人類に一縷の希望を抱かせつつも、一群の教えはただ自らの偽りを暴き出し良心を痛ませまた実生活と折り合わないと思われた。ルターはこの説教を、遵守困難の苦悩が惹起され福音へ追いやると位置づけた。しかしイエスは旧約律法の只中で一步一步福音を実現しつつあり、初めからの福音と律法の静的な分節は適切ではない。

イエスは選びの民イスラエルの伝統を引き受けその教えを純化、先鋭化する。民の選びは神の一貫した歴史のなかで民への先行啓示と修練を経て、異邦人の招きに至り「御国の福音」(4:23)の成就に向かう。イエスの憐みから迸る生命は古い業の律法の革袋を内側から破り溢れ出し、信の律法の新しい革袋に注がれる天的な生命であった。

「昔の人々によりこう語られた・・・しかし私は言う」と、同胞の自己満足、パリサイ的偽善を言葉の力により白日の下に晒し、天の父との正しい関係形成にまず心を向けさせる。「君の宝のある所、君の心もある」。形骸化した数百の律法を尻目に、彼は「君たちはより重要な公正(正義)、憐み、信を蔑ろにしている」(23:23)と同胞を叱る。その先駆者は順に十戒のモーセ、憐み贖う神のイザヤ、信仰義認のアブラハム等である。旧約の三種の律法は、「まず御国とご自身の義を求めよ」の信に基づく義により「律法の一点一画とも廃棄されない」その諸々の業の律法の義が「敵をも愛せ」への収斂において秩序づけられる(22:38)。信の根源性に基づく義そして義の果実と



して愛に至るその一本道が打ち立てられた。

「山の上の街は

隠れることがない」。その光の端的な神のみ旨の前では、社会の相対的なものごとは問題にならない。「何を食べ、着るか煩うな」は経済を、「裁くな」は司法を、「左頬をも向けよ」は防衛を一見困難なものにしようが、人生には端的な最重要事がある。「神と富に仕えることはできない」、むしろ「[生活の]必要物をご存じである」その信頼に生きる。「明日のことを煩うな」。「求めよさらば与えられん」。その光が明らかにする地と天の連続の透明性のなかで、イエスは一切を神の前の事柄とする。

イエスはモーセ律法の純化により自己への厳格な適用と隣人への寛大な憐みの適用こそ神のみ旨であると言う。伝承に抗して、一方で、憎悪即殺人、色情視即姦淫、誓い即自惚れ、家族愛即独善、愛敵即無抵抗などの厳しい教えの自己への適用において自らの偽りが暴かれるが、悔い改めの信により克服し隣人愛に向かう。他方、隣人への対応において「裁くな」、「赦せ」と端的な憐みが命じられる。

神の憐み深さは量り杓の譬えに見られる。「君たちは、天の父が憐み深くあるように、憐み深くあれ・・・赦してやれ、赦されるであろう。与えよ、与えられるであろう。人々は[麦を]押しつけ、揺すりこみ入れ、こぼれる程に量りを良くして懐に入れてくれる」(Luk.6:36)。ただし「豚に真珠」ではなく飼料を備えるように、善意は人と状況の正確な「識別」を要する。「識別することがらにおいて自らを裁かない者は祝福されている」

(Rom.14:23)。敵を愛するべく、イエスは「叡知の刷新」により十字架の死が不可欠であると「神のみ旨を識別した」(Rom.12:2)。「狭い門から入れ・・・木は実により知られる・・・天の父のみ旨を行う者が天国にいれて戴く」。千葉恵

多摩川に抱かれて 東京大学理科一類2年 原島寛之

2023年7月16日曜日、燦々と照りつける太陽の下、多摩川のいかだレースに参加した。会場は東京都狛江市の河川敷で、登戸学寮から徒歩で15分くらいの距離だ。小田急線の高架がちょうど中心付近にくる全長1.3kmのコースで、主に狛江市と川崎市から約80チームが集まった。

寮から出場したのは3チーム12人。当日は参加できなかったものの、練習でいかだを漕いだり、いかだ作りを手伝ったり、応援に駆けつけてくれたりした人を合わせると、さらに多くの寮生が関わっている。いかだの設計担当、レンタカー担当、オリジナルTシャツ担当、パドル担当のように寮生で仕事を分担し、寮長夫妻の多大なるご支援も受けて準備を進めた。期末テスト前で忙しい中、またほぼ全員がレースへの参加経験を持たない中、3チームともが優秀な成績を取られたのは、寮長夫妻と大勢の寮生の協力があつたからに他ならない。

寮には、コロナ禍前の先輩方が同じ大会に使っていたいかだが2艘残されていた。いずれも全長約2.7mで3人までしか乗れなかったため、新たに全長5.4mの5人乗りのいかだ2艘を製作した。本番までの1ヶ月半で4回の練習を行い、いかだの設計の試行錯誤も繰り返した。

迎えた大会当日。これ以上ない晴天に恵まれ、夏の日差しがむき出しの足を焦がす。たびたびの練習で、すでに足にはサンダルの形の日焼けがついていた。試合前の待機場所は日向で、レースの熱気も相まって茹だるような暑さであった。

最初に出走したチームは「登戸学寮ちょき」。今年度入寮した1年生男子4人で構成されたチームで、第4レース内で一位になった。続いて出走したのは「登戸学寮ぱー」。女子3人で構成されており、ちょうど応援場所の前でライバルを追い越して大いに盛り上がった。最後に「登戸学寮ぐー」が出走した。2、3、4年生の男子5人で構成されていて、一番後ろで舵取りをする僕以外は寮内屈指の力自慢揃いであった。出走合図で一気に飛び出し、隣のいかだとともに先頭に躍り出た。いい航路の取り合いで一時は接触もあったが、競り合いに勝つてからはすぐに2位を引き離して独走状態になった。コースの半分を超えたあたりからは10分前に出走したチームを抜き始めた。最後は消耗した体力との争いだった。直前まで掛け声と力をふり絞り続け、ゴールするなり皆崩れ落ちるように川の中に飛び込んだ。惜しくも5秒の差で上位入賞を逃し、全体9位という結果ではあったが、初出場の

チームとしては胸を張れる成績だと思っている。

今回のいかだレースを通して、寮内での交流のみならず、地域の住民との交流もあった。初めての練習の時に、河川敷で8連勝中のチームのリーダーの方に出会った。初出場だと言うといかだの作り方や漕ぎ方を教えてくださったばかりか、チームメイト以外を乗せたことがないといういかだに特別に乗せて頂けた。また他の強豪チームにも材質のアドバイスをもらったり、大会当日に電動ドライバーを貸してもらったりと、見知らずの人たちの温かさに触れた。

いかだレース以外でも多摩川は生活の中に溶け込んでいる。去年の冬、寮の仲間たちとマラソンを走った。その時から、多摩川の河川敷はお決まりのランニングコースの1つになっている。また今年は狛江・多摩川の花火大会が再開された。中庭で栽培したスイカを手にも男子寮の屋上に登り、多摩川の河岸から登る花火の鑑賞会もした。太陽を反射する青い水面。深夜の湖面に映る電車の光。水面を切る手作りのいかだ。目を閉じれば多摩川の美しい風景を鮮明に思い描くことができる。

この記事を書くために過去の大会の記録を調べてみると、公開されている記録の中で最も古い2013年大会から登戸学寮のチームが出場していたことがわかった。2013、2014年には「登戸学寮」、2015年から2017年までは「登戸ユトリーズ」、2018年に「柞形の山男」、2019年に「フェイ」の名前で出場しており、いずれも31位から67位を獲得していた。

コロナ禍と寮長の交代で一度は断絶してしまったいかだレースへの出場だが、4年の時を経て復活させることができたと思うと感慨深い。残っていたコロナ前の写真には、今年と同じようにいかだレースの後に中庭でBBQをする寮生の姿があり、面識のない卒業生たちとのつながりを感じた。来年の大会こそ入賞を目指すので、OBOGの方にもぜひ応援に来ていただければと思う。



快晴の当日、オリジナルTシャツで

狛江古代カップ第31回多摩川いかだレース大会 大会結果

- 👉 登戸学寮ぐー 14分41秒 9位
五十川大地 温ハンビツ 須貝真琴 原島寛之 結城史音
- 👉 登戸学寮ちょき 21分25秒 30位
石井裕人 大友康 野田明伸 浜崎航希
- 👉 登戸学寮ぱー 24分51秒 39位
海老原薫 龍野実咲 松井はんな

サッカーからフットサルへ

東京都市大学 環境学部1年 野田明伸

大学に入学し半年以上経ちました。僕はフットサル部と文化祭実行委員に所属しています。今回はフットサル部についてお話します。僕は小中高とサッカー部に所属していたため、フットサル部に入部することにしました。活動は週2回でその他に試合が1ヶ月に約2戦程あります。フットサルはサッカーよりも少人数で試合を行うので、メンバーとコミュニケーションをとる機会が増えることになります。よって1年生の部員はもちろんのこと、フットサル部の先輩との交流も多くなります。先輩とのコミュニケーションを通して大学の授業内容などは勿論のこ

と、社会性や人間関係など将来役に立つと思えることを学んでいると感じています。最後に、活動している中で楽しいと感じる時は、前の試合で失敗したことを練習して改善し、次の試合でその失敗を克服し勝利することです。ぜひ皆さんも、何かに熱中して活動してみてください！何かに熱中していた日々はいつか振り返ってみた時に辛かったことも嬉しかったことも全てかけがえのない思い出になっているはずです！



試合の前に

チアダンス、楽しんでます！

玉川大学 農学部1年 松井はんな

私はインカレチアダンスサークルArielsというサークルに所属して、チアの練習をしています。チア経験は今まで全くなかったのですが、大学進学を機に新しい事を始めてみたかったこと、チアの華やかな世界に魅

了されたことからこのサークルに入りました。毎週、チアの基礎的な動作の練習や新しい曲の振り入れなどを行っています。8月16日、代々木公園野外ステージで開催され



発表会で

たイベントで初めて発表しました。発表に向けて本格的な練習が始まると、フォーメーションが組まれたり、フォーメーションによって振りが変わったりして、本当に自分に出来るのかな…?と不安になりましたが、繰り返し練習することで何とか覚えることができました。本番はほとんど緊張することもなく、楽しんで踊ることができました。このサークルに入ったことでチアの楽しさや人前で何かを披露する楽しさを初めて知り、チアを始めて良かったなあと思っています。



こんな感じで開いています

寮生活動支援 きんじょの本棚 和光大学 現代人間学部4年 結城史音

「きんじょの本棚」は本を通して人の交流が深まることを目的とした活動で、町田市を中心に199台設置されており高知や岡山、埼玉などにもありますが全体の約8割が町田市に集中しています。自分の選んだ本を本棚に詰め、様々な方法で人に紹介し、無料で貸出を行います。本棚が一か所に集まっているのは「どこで借りてどこで返してもいい」というユニークなルールのためです。各地の本棚の間を本が行き交い、ひとつの本棚から本が出入りするだけでなく、マチの中でぐるぐると本が循環する事を理想としています。

この活動は2018年、わずか7台の本棚から始まりました。私は175台目「ワスレナ和光大学店」として今年5月から始めました。和光大学で最もにぎやかな通路、和光銀座で7月までの月、水、木、本棚を開きました。計86冊を貸し、54冊が返却されています。未返却の32冊は貸して日が浅いなど返却の目途はついていません。また活動に賛同し本を持ち寄ってくださる方も

いてこれまで27冊の寄贈がありました。全学休講や悪天候などで休止もありましたが、同じ場所、同じ時間に開催しないと本の貸出と返却がスムーズに行えないため継続的な開催を心がけた結果、何度も足を運んでくれる方が増え、大きなモチベーションとなりました。気温が37度を超えた日など貸出は1冊(幸いなことに貸し出し0冊の日は一度もなし)、何のためにこんなことをと逡巡することもありましたが足繫く通ってくださる方の存在が支えとなりました。

またゼミぐるみで企画されたブックカバーや婚約者が製作したポストカードを販売するなど本の貸出以外の活動も行いました。

後期は新しい本の購入を検討、陳列する本の入替を行って新しい常連さんの獲得を目指し、寮内での開催もより積極的に行っていきたいと考えています。

評議員選定委員会・理事会・評議員会 報告

1. 評議員選定委員会、理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の評議員選定委員会は2023年4月22日(土)に定例理事会は5月20日(土)に、定時評議員会及び臨時理事会は6月10日(土)に、対面及びZoom会議形式で開催されました。以下にその議事内容について報告します。

2. 評議員選定委員会

評議員選定委員会において、定款の定数(12名以上20名以内)に鑑み、下記の14名が評議員として選定されました(就任時期2023年6月10日定時評議員会の終結時、任期4年)。安達寿彦、石川和生(新任)、井上和駿、江川信吾、北村 寛、香西 信、白崎良二、土屋真穂(新任)、堤 和通(新任)、長谷川真緒香、早川 嗣、星住リベカ、宮崎聡子、安井 光(新任)(敬称略、順不同、無記載は再任)。

3. 2022年度決算

2022年度決算資料(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表等)について、以下の通り説明があり、監事による監査報告を経て、承認可決されました。

1) 収支計算書については、事業活動収入は、寄付金が大口寄付を含めて大幅に増加したこと等により、3,504万円(予算対比+53万円)、他方、事業活動経費は、コロナ対策費を含めた寮生福利厚生費や広報費の減少等により2,557万円(予算対比-173万円)その結果、事業活動収支差額は、948万円(予算対比+226万円)となりました(別表1参照)。

他方、投資活動支出額は、建物再建積立、修繕積立、特定費用準備金の3つの特定資産取得支出520万円に加え、将来の収支変動に備えるため新たに創設された財政調整積立資産に300万円を積立した結果、事業活動収支差額から投資活動支出(853万円)を差し引いた当期収支差額は、プラス94万円(予算対比-47万円)となりました。

【別表1】収支計算書
令和4年(2022年)4月1日から令和5年(2023年)3月31日

(単位:円)

科目	予算額 ^a	決算額 ^b	差異 ^{b-a}
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
基本財産運用収入	0	125	125
特定資産運用収入	0	2,504	2,504
入寮費収入	1,350,000	1,350,000	0
寮費収入	28,920,000	27,332,850	-1,587,150
寮費収入(室料)	17,160,000	16,300,200	-859,800
寮費収入(食事代)	6,300,000	5,774,050	-525,950
共益費等寮生徴収金	5,460,000	5,213,200	-246,800
短期宿泊料収入	0	45,400	45,400
寄付金収入	3,500,000	5,772,200	2,135,200
寄付金収入(一般)	3,500,000	5,410,200	1,910,200
寄付金収入(特別)	0	225,000	225,000
クリスマス献金	0	137,000	137,000
雑収入	45,000	76,150	31,150
特定費用準備金取崩収入	700,000	507,903	-192,097
事業活動収入計	34,515,000	35,041,732	526,732
事業活動支出			
人件費	10,060,000	10,010,720	-49,280
賄材料費	3,900,000	3,796,470	-103,530
会議費・役員会雑費	130,000	81,790	-48,210
旅費交通費・車両費	250,000	122,194	-127,806
寮生指導・厚生費	850,000	597,098	-252,902
寮生活動支援費	550,000	352,575	-197,425
通信運搬費	600,000	543,094	-56,906
消耗品費・事務用品費	800,000	817,147	17,147
修繕費・什器備品費	900,000	1,129,536	229,536
方舟刊行・印刷費	1,050,000	1,011,535	-38,465
講演会等諸雑費	555,000	423,172	-131,828
水道光熱費	3,115,000	3,120,114	5,114
広報費	1,200,000	869,521	-330,479
図書新聞費	80,000	54,600	-25,400
支払報酬料	1,100,000	839,366	-260,634
災害保険料・防災費	700,000	658,017	-41,983
租税公課	350,000	397,350	47,350
支払手数料・その他	1,110,000	740,964	-369,036
事業活動支出計	27,300,000	25,565,263	-1,734,737
事業活動収支差額	7,215,000	9,476,469	2,261,469
II 投資活動収支の部			
投資活動収入	0	0	0
投資活動支出	5,800,000	8,533,579	2,733,579
特定資産取得支出	5,200,000	8,200,078	78
固定資産取得支出	600,000	333,501	-266,499
投資活動収支差額	-5,800,000	-8,533,579	-2,733,579
当期収支差額	1,415,000	942,890	-472,110
前期繰越収支差額	8,979,531	8,979,531	0
次期繰越収支差額	10,394,531	9,922,421	-472,110

2) 正味財産増減計算書については、経常収入が3,504万円(対前年比+32万円)、経常費用が、電気・ガス代金の増加の一方、40周年工事の償却完了による減価償却費減少等により3,150万円(対前年比-149万円)となり、その結果、当期経常増減額は、354万円(前年対比+181万円)となりました(誌面の都合上、正味財産増減計算書は、方舟次号に掲載予定)。

3) 貸借対照表については、上記建物再建積立、修繕等積立、特定費用準備金に財政調整積立を加えて、特定資産積立総額は、9,781万円(対前年比+769万円)となりました(別表2参照)。

- ・なお、従前から学寮会計のチェックをお願いしている海老原税理士から、毎月の実査も踏まえて、決算処理を妥当とするコメントがありました。
- ・以上のように、皆様方の多額のご寄付とご協力の結果により、2022年度決算において、所要の特定資産積立を行った上で、当期収支の黒字を達成

することができたことに対して、改めて厚く御礼申し上げます。

4. 次期理事、監事、顧問、次期理事長(代表理事)、常務理事(執行理事)の選任

- ・次期理事として、小島拓人(再任)、牛嶋仁(再任)、大竹英雄(再任)、大谷恵(再任)、岸本尚毅(再任)、小西孝蔵(再任)、白石光一(再任)、千葉恵(再任)、橋内武(再任)、福嶋美佐子(再任)、平田和吉(新任)、安田裕(新任)の12名(任期2年)が、次期監事として、古角隆(再任)、副島正

【別表2】貸借対照表 令和5年(2023年)3月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	13,794,641	12,167,334	1,627,307
未収金	15,206	0	15,206
棚卸資産	113,407	83,274	30,133
前払金	45,000	45,007	-7
立替金	109,690	93,450	16,240
流動資産合計	14,077,944	12,389,065	1,688,879
固定資産			
基本財産			
土地	592,500	592,500	0
建物	127,036,130	131,963,013	-4,926,883
定期預金	6,300,001	6,300,001	0
基本財産合計	133,928,631	138,855,514	-4,926,883
特定資産			
建物再建特定積立資産	84,848,012	81,148,012	3,700,000
修繕等特定資産積立資金	5,000,105	4,000,076	1,000,029
特定費用準備金	4,964,727	4,972,581	-7,854
財政調整積立資産	3,000,000	0	3,000,000
特定資産合計	97,812,844	90,120,669	7,692,175
その他固定資産合計	3,750,483	4,429,726	-679,243
固定資産合計	235,491,958	233,405,909	2,086,049
資産合計	249,569,902	245,794,974	3,774,928
II 負債の部			
流動負債			
前受金	2,734,320	2,055,320	679,000
未払金	579,699	521,884	57,815
預り金	61,504	52,330	9,174
入寮時預り金	780,000	780,000	0
流動負債合計	4,155,523	3,409,534	745,989
固定負債	0	0	0
負債合計	4,155,523	3,409,534	745,989
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産	3,964,723	4,472,581	-507,858
2. 一般正味財産	241,449,656	237,912,859	3,536,797
正味財産合計	245,414,379	242,385,440	3,028,939
負債及び正味財産合計	249,569,902	245,794,974	3,774,928

人が各々選任されました。また、顧問として、鷺見八重子氏、黒崎稔氏、副島浩氏の3名(任期1年)が各々選任されました。

・次期理事長には、小島拓人理事長(再任)が、常務理事(2名)には、小西孝蔵理事(新任)、千葉恵理事(新任)が各々選任されました。

5. その他

・今般の諸物価の値上がりを受けて、寮費の改定が必要と考えられることから、物価値上がり対策検討ワークショップ・グループを発足させ、11月の臨時理事会までに取りまとめることされました。

・長年にわたり、役員(評議員、理事あるいは監事)として学寮運営に貢献して来られた副島茂評議員、鷺見八重子常務理事、黒崎稔監事、副島浩監事がいずれも、役員定年により、この6月10日をもって退任されましたが、そのご尽力とご功績に改めて感謝の意を表します。

ワシントン国際開発便り・第1号

吉野 裕（1990年入寮）

この度、「ワシントン国際開発便り」と題し、世界銀行という国際金融機関の業務を通じて、世界の開発問題について思うこと、感じることを、短い連載記事として紹介させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2019年9月より駐在していたバングラデシュの任務も6月末で終了し、8年ぶりにワシントン本部に戻り、経済アドバイザーとして新たに欧州・中央アジア地域担当副総裁室に配属されました。欧州・中央アジア地域は、非常に多様性に富んだ地域であり、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国、コーカサス諸国、中央アジア諸国といった旧ソ連邦諸国、バルカン半島を含む東欧諸国に加え、トルコといったように、非常に多くの国から成っています。世界銀行の同地域への支援は、ソ連邦崩壊後の1990年代、市場経済への移行を支援することで大幅に拡大しました。その後、諸国の経済成長、貧困削減は進みましたが、生産性向上の伸び悩みからの経済成長の行き詰りがあり、ビジネス環境整備、国営企業改革、金融セクター強化など、市場経済移行への課題は残ってい

ます。ここ1、2年は、コロナ禍に重複して始まったロシアのウクライナ侵攻、世界的な価格高騰、今年2月のトルコ・シリア大地震など、危機対応支援で忙しくなっています。

そのような中、気候変動問題や難民問題（難民受け入れ国への支援を含む）といった、グローバルな開発課題に関連した支援も大きくなっています。域内諸国では、石炭、石油、ガスといった化石燃料への依存が未だ高く、太陽光、水力といった持続可能なエネルギー資源への移行（脱炭素化）やエネルギー効率向上は、地球環境問題への貢献ということだけでなく、炭素国境調整メカニズムを導入するEUとの経済統合を維持するためにも、各国にとって直接的な課題でもあります。また、エネルギー移行による貧困層の家計への圧力を和らげるため、社会保障制度の強化なども大切です。世界銀行では、2022年より各国にて国別気候変動・開発報告書という新しい調査報告書を作成しており、この報告書の政策提言をベースに、欧州・中央アジア地域でも気候変動関連の開発支援融資事業が増えてきています。

第3回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会、ホームカミングデイのご案内

第3回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会、ホームカミングデイが、登戸学寮にて行われます。講演会では、今年度もまた地の塩、世の光として働いてこられた方にその歩みの軌跡をご講演いただく予定です。

またホームカミングデイでは、寮生活動支援を受けた寮生が活動報告を行います。オーストラリアやアルメニアでの語学を中心とした研修と異文化体験、大学や地域で継続的に展開している移動式図書館「きんじょの本棚」の活動、世界的なオルガニストのマスターコースや教会音楽(讃美歌)指導法の受講を通して自身の音楽と信仰の在り方を省みる機会を得た経験、ヒマラヤの未踏峰を目指す登山隊に参加し自分の成長を感じ、世界を広げた経験など様々な興味深い報告にご期待ください。

2023年11月25日(土)

15:00~16:00 第3回黒崎幸吉賞授賞式・講演会

16:10~18:00 ホームカミングデイ

寮生活動支援報告

報告者 川嶋すず菜 中村真人 牧真人
結城史音 吉野泉

朗読劇 ラゲルグ キリスト伝説集より

終了後に茶話会

*対面およびオンラインで参加を希望される方は、電話(044-933-0819)、またはメール(noborito@gakuryo.or.jp)でお知らせください。

*オンラインで参加を希望される方は、下記のURLよりご参加ください。

<https://us06web.zoom.us/j/9013893127>

ミーティングID 901 389 3127



新理事紹介



平田 和吉さん

2023年6月に理事に就任した平田です。登戸学寮には1971年4月から1975年3月まで4年間在寮しました。小西常務理事が先輩寮生、北村評議員が同期生という環境でした。

卒寮後は、「技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」、という企業理念に共感し、電機メーカーに就職しました。当時はオイルショックの影響があったものの、日本経済は低成長ながらも国際競争力は維持されている時代でした。私はシステムエンジニアとして、お客様企業の情報システム構築を通じて、経営基盤強化と競争優位を確保するための活動を続けてきました。

1990年代のバブル崩壊後は、お客様企業の海外進出やサービスの海外展開を支えるため、情報システムのグローバル化を通じて企業の成長に貢献してきました。

38歳頃になると、体調不良を感じるようになり、1990年に神戸市に転居した際に、健康を維持するためスポーツクラブに加入し、ジョギング

を始めました。その過程で、職場の先輩から市民マラソン参加のお誘いがあり、練習半年でハーフマラソンを完走しました。それ以降、健康を維持しつつ、大会参加を目標にトレーニングを続け、71歳の現在まで数々の市民マラソンに参加してきました。71歳クラス全日本フルマラソンランキングは、640人中364位です。

在寮時は当時の寮長にご指導いただき、関係の皆様にも大変お世話になりました。卒寮後も、人生の様々な局面で守られ、支えられてきたと実感しています。今後は学寮の活動に微力ながら貢献したいと考える所存です。

最後に、在寮生の皆様が将来、活力とゆとりある社会の一員として活躍されることを期待し、日々研鑽されることを祈念しています。



2022年11月、福知山マラソンに参加



安田 裕さん

この度理事に就任しました安田裕（ゆたか）です。まず私は登戸学寮の卒寮生ではありません。そこで登戸学寮と私の関連について述べます。

私の父は神戸で黒崎幸吉先生の書生としてお世話になりました。その後も黒崎幸吉先生とは長い間お付き合いがあり登戸学寮設立にも関係がありました。父の死後も私と黒崎家とはお付き合いが続いており、2020年に黒崎顧問よりお声がかかり現在に至っています。



2023年6月 ミュンヘン、ニンフェンブルク城にて

次に私の経歴について述べます。1982年に明星大学電気工学科を卒業（在寮生に明星大学在校生がいらっしやるので嬉しく思います）。卒業後(株)リコーの子

会社に教授の紹介で入社（当時はエントリーシートなどなく教授紹介で即内定でした）。その後子会社が清算され親会社の(株)リコーへ転籍し技術分野で定年まで勤めました。会社は日々変化していますが、長い現役生活ではチャンスと仕事のなかで仕事以外の楽しみを見つけることが大事であると定年後振り返ってみて思いました。学生の皆さんの参考になればと思います。余談ですが事務室のコピー機の導入に関してお手伝いさせていただきました。

新理事として財務を小西理事のご指導の下担当させていただきます。財務、経理関係は素人ですのでよろしく支援のほどをお願い致します。また卒寮生ではない立場からの視線も含めて登戸学寮の運営が順調に進むように努めたいと思います。登戸学寮は色々な学校の学生が集まります。HCDなど卒寮後もつながりをもてる特徴のある学寮なので横のつながりを大切に広い視野をもって創設者の想いを感じながら学寮生活を送れるよう願っております。

卒寮生インタビュー その5 吉田(伊藤)琴音

在寮期間：2011.4～2015.3

一 近況を教えてください。

放射線技師として病院で働いています。3歳の双子の女の子がいるので、パートで今は週4日9時～14時半の短時間勤務です。今は子育て中心の生活で、7時半に子どもたちを幼稚園に送り届けて8時に駅。仕事をして15時半には駅に戻ってきて一旦帰宅。30分で夕食を作ってから幼稚園にお迎えに行きます。子どもたちも疲れているので、毎日ぐずっています。何とかご飯を食べさせてお風呂に入れて19時までには寝かしつけています。私も疲れてしまい21時過ぎには寝てしまうことが多いです。

一 放射線技師を志したきっかけは？

高校が理系だったこともあり、医療系の資格が取れる大学に進学したいと思っていました。放射線技師について調べた時に、マンモグラフィー検査を行う技師は女性の方が好まれるので、女性として活躍の場があるのではないかと思いました。大学卒業後に就職した病院で放射線技師として働きながらマンモグラフィー認定技師の資格を取りました。残念ながら今の職場にはマンモグラフィーがないので、これまでの経験などを生かしていませんが、先日5年おきにある更新試験があってしっかり更新してきました。

一 寮生活を経験してよかったことは？

自分では気づけない自分自身の性格などをみんなが教えてくれ、気づけたことです。指摘してもらった自分の欠点を直そうと思えました。

就職採用試験の時に履歴書に寮生活のことを書けた



大学に提出するレポートを準備

のもよかったです。寮生活はみんながみんな経験していることではないので、様々な大学などの人たちと一緒に生活してコミュニケーション能力をつけることができたということ、面接で伝えアピールすることができました。



一 寮生活や寮生との思い出は？

寮のイベントや寮生たちとの旅行など、思い出はたくさんありますが、みんなと談話室で過ごす時間は居心地がよく、たわいもない会話が何より楽しかったです。

大学の友人は気が合う人だけです。寮生は必ずしもそうではありません。生活を共にし、楽しい時間を過ごした彼ら彼女らとは連絡を取ってなくても繋がっている気がする、寮生は私にとってそんな存在です。

一 今後の夢や目標は？

ハンドメイドの子ども服のオンラインショップを立ち上げたいです。子どもたちの服の好みに偏りがあり、服を着せるのにすごく苦勞していたので、子どもたちが自分から着たくなるような服があったらいいなとずっと考えていました。子どもが幼稚園に入園するにあたって、在宅でできる仕事はないかと探していたのですが、どれもやりたいという気持ちが起こりませんでした。子ども服作りならやりがいを持ってできるのでないかと思い、子どもの服作りのオンライン講座を受講しました。そこで手作りした服を子どもたちが「かわいいっ」と言ってくれて、友人にもプレゼントしたらその友人の子どもも喜んでくれました。

一 やりがいを感じられたのですね。

はい。仕事でワクワクという気持ちは大事だと思います。これなら仕事にできると手ごたえも感じました。寮生の頃は、将来、自分が子ども服を作るなんて夢にも思いませんでした。ボタンの縫い付けもできず、服飾の専門学校に通う寮生に取れたボタンを縫い付けてもらっていました。妊娠中にYouTubeを見ながらミシンで赤ちゃんの小物を作って、産後しばらくはミシンに触れていなかったのですが、幼稚園入園時に入園バックなどを一式作りました。そこからなので本当に始めたばかりです。今は仕事と育児、家事の僅かな隙間時間に本格的な販売に向けて準備をしています。近い将来、自分の作った子ども服を手にした子どもが喜んで服を着てくれたら嬉しいです。

聞き手：織田千尋

「寮友会」とは

本会は寮生活を経験したOBOGで構成され、創立者黒崎幸吉先生の建寮の趣旨を尊重し、会員相互の親睦と在寮生との交流、支援等を行うとともに、登戸学寮が未永く存続し続けるために必要な諸事業を支援することを目的としています。

■寮友会の最近の活動

「在寮生との交流、支援（「寮友会会則」第二条の会の目的）の趣旨に照らし、寮友会として在寮生への支援を具体化することを役員会で検討し、以下の取り組みをスタートしました。

在寮生への支援

・学寮のキャリアフォーラム（寮生に対し、卒寮生等が現在の職業・生活等の体験談を話す会。将来の姿をイメージし、卒業後の職業や人生を考える資とすることを目的とする）の講師として、各分野の卒寮生等が招聘されています。直近では安井光評議員（1994年入寮、アイディアファクトリー株、ゲーム業界でご活躍）をお招きしました。

・大野恵正著「旧約聖書入門1～4」（教文館）を、寮友会役員の前島浩氏が学寮に寄贈しました。

・新入寮お祝いとして、6月にケーキを寮生・職員の皆様にご提供しました。

・卒寮生の婚礼でお祝いの演奏をした寮生（音大生）への謝礼金の補助を行いました。

上記にとどまらず、種々の形での寮生への支援を継続して参ります。2023年4月1日時点の役員は以下の通りです（「方舟」63号参照）。

会長：石川光。副会長：岸本尚毅。執行役：古角隆（会計）、前島浩、古角修。顧問：坂内宗男、前島茂。



新入寮のお祝いケーキ

■在寮経験者の住所等の情報について

・寮友会及び学寮宛にご提供いただいた住所等の情報は個人情報として管理しています。寮友会会員間の連絡等のため当該情報の利用をご希望の方は役員までご照会ください（窓口：岸本gakuryomeibo@gmail.com）。なお、情報管理の観点から、情報の用途、利用者等を確認させていただくことがあります。

■その他（お知らせ）

・学寮においては「黒崎幸吉賞」（在寮経験者で社会活動・芸術文化等の分野で活躍している方、または活躍が期待される方。当寮の設立の理念を理解し、当寮を支援してこられた方などを表彰し、謝意を表明する）の候補を募集しています（期限は毎年6月末）。

・キャリアフォーラムの講師として、様々な分野（例：金融、社会福祉、IT、その他）で活躍する卒寮生等の招聘が期待されています。講師となり得る卒寮生等の情報がありましたら、自薦・他薦を問わず、寮友会まで情報提供をお願いします。

・卒寮生住所等情報の利用、「黒崎幸吉賞」推薦、キャリアフォーラム講師推薦については、寮友会窓口の岸本（gakuryomeibo@gmail.com）宛、または学寮の寮長までご連絡ください。

コラム——太宰治の俳句

俳人 岸本尚毅（学寮OB）

「ほうか 幫間の道化や囊れやみづつばな」は太宰が大学生の頃の俳句です。人の機嫌を取る商売の幫間が、お道化を演じることに疲れ、やつれた顔で水つばな（冬の季語）を垂らしている、というのです。その十数年後「人間失格」に「自分は、皆にいいそがいかわりに、友情というものを、いちども実感した事が無く」「遊び友達とは別として、いつさいの付き合いは、ただ苦痛を覚えるばかりで、その苦痛をもみほぐそうとして懸命にお道化を演じて、かえって、へとへとになり」と書きました。亡くなる年に発表した代表作「人間失格」に現れた太宰の哀しい自画像は、すでにその若き日の俳句に姿を現していたのです。

（参考文献：岸本尚毅『文豪と俳句』集英社新書）

ご支援への御礼とご報告

登戸学寮をお心に覚えていただき、いつもご支援を賜り心から感謝申し上げます。
 ここにご芳名を記して御礼申し上げます。

寄附者ご芳名

2023年4月1日から2023年8月31日まで（敬称略） 個人100名・1団体、総件数113件

（個人）100名

青木幹夫、阿部光成、有賀実男、石原和義、市村昭三、井出紀子、伊藤康子、犬養光博、内坂建、内野隆三、越智好、大内信一、大川四郎、大崎桂介、太田源左衛門、大友浩、岡田菊造、柿沼蓉子、金井直子、岸本尚毅、木村護郎クリストフ、木村秀夫、黒崎光子、黒崎稔、小泉智博、幸野道雄、小河原貞一、小島拓人、小関道子、児玉伸彦、小西孝蔵、木幡藤子、小山高澄、笹井岩男、佐々木さら、佐々木洋子、佐藤勝輝、佐野好則、島創平、清水亨、白方勇一、白崎良二、菅沼勝子、須藤浩一郎、鷺見誠一・八重子、須山澄子、副島茂、副島浩、副島正人、高田暁治郎、高田秀樹・知子、高橋由典、武井陽一、竹内恵子、竹内弘之、谷田光弘、田家従子、千葉眞、月本昭男、土屋泰次、綱野悦子、徳光猛、富井直子、富永尚、鳥居祝子、

直木葉造、中村真理子、名取克也、西川信義、西野勝、西原偕子、西村真、野々瀬協子、野々瀬浩司、羽賀道信、橋内武、長谷川浩司、原研治、秀村研二、平田和吉、福岡和子、福嶋美佐子、藤田信夫、藤原国土、古角隆、星住リベカ、細貝昭吾、正村邦男、増田高子、三田洋子、光石佐与、矢崎俊二、安田裕、山岸礼奈、山口和彦、山田信昭、山本鐵子、横内信子、匿名2名

（団体）1団体

山形聖書集会



いかだを組み立てる



川上に向かって皆で漕ぎ出す

いかだレース練習中のひとこま

寮生の出身国、出身都道府県（太字は新入寮生・2023年10月1日現在）

男子寮生（24名）	女子寮生（13名）
北海道、岩手県、山形県、 栃木県、茨城県、千葉県、 埼玉県、 東京都、 神奈川県、長野県、 愛知県、 奈良県、 大阪府、 岡山県、 大分県、 沖縄県、 韓国、アメリカ合衆国、カナダ	山形県、 岩手県、福島県、埼玉県、 東京都、 静岡県、長野県、愛知県、大阪府、 宮崎県、 沖縄県

【編集後記】秋も冬も来ないまま、来年の夏がやってくるのではないかと心配になるような暑さが24時間果てしなく続いた夏でした。コロナ禍から一転、世の中は以前の生活を取り戻しつつあるようです。しかし、地球温暖化はますます進み、沸騰寸前。吹きこぼれる前に差し水をするくらいで沸騰を阻止できるのか、では火を弱めるのか、消してしまうのか。足るを知りつつ火の調整をする必要があるのではないかとと思うのですが（M.C.）。

公益財団法人 登戸学寮
 〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柞形6-6-1
 ☎ 044-933-0819 ✉ noborito@gakuryo.or.jp
 発行人 小島拓人
 編集委員 大谷 恵、織田千尋、岸本尚毅、早川 嗣、鷺見八重子、千葉 恵、千葉美佐子
 発行日 2023年10月19日